

2025年9月25日（木）

老球の細道 887号

第27回会津地区ミニバスケットボール・ジュニアカップ観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

史上最高の夏の暑さを記録した会津地区にようやく小さな秋を見つけた。大会開催中の2週間は寒暖の差が大きく、私も2週目の服装は上下長袖長ズボンに着替えて大会観戦、孫たちの追っかけで熱くなった。我が家では親のみならず爺婆も含め一家総出の応援。

今大会は5年生以下の大会となったが、一昔前のジュニアカップとはうって変わって非常にレベルが高かった。特に優勝した男子坂下ミニバスチームは全員バスケットが徹底しており、オフェンスは5人でボールをよく回して全員が得点できた。ディフェンスにおいても1:1のディフェンスを一生懸命守りながらヘルプを徹底し、ステイールやディフェンスリバウンドからのランジションオフェンスで一気に流れを作るチームスタイルが素晴らしかった。準優勝した門田ミニバスチームもガードとセンターに逸材が揃い、このコンビネーションが熟練すれば今後楽しみなチームとなるだろう。男子はその他のチームにもボールハンドリングに優れた逸材が豊富であった。

一方、女子の優勝チーム猪苗代ミニバスチームは身長の高さをものともせず、ディフェンス、リバウンド、ルーズボールと泥臭いプレイにチーム一丸となって取り組む素晴らしいチームであった。特にどこからでもボールに手が出る球際の強さは圧巻であり、中学生、高校生などにも見せてやりたかった。この猪苗代と準決勝で延長戦を戦って惜敗した河東ミニバスチームもチームバランスが良く、どこからでも得点が取れるチームであった。サイズがあり選手層も厚いので今後の成長が楽しみである。

私は大会の閉会式のあいさつで、選手達に今大会の勝敗に一喜一憂しないで、「なりうる最高のチーム」「なりうる最高の自分」を目標にこれからますます努力してほしいと話した。勝つことだけにこだわると今夏の甲子園野球で大会途中出場辞退したK高校のように上級生の下級生に対する暴力や指導者の暴力指導を引き起こす原因となりがちである。負けてばかりでも、生涯、勝ち無しで天国に逝った競走馬「ハルウララ」のように、あきらめずに挑戦していれば「価値（勝ち）ある一生でしたよ」と多くの人に感動を与えられる。

大会期間の合間に会津まつりが開催されており、その中で会津若松市内小学生の鼓笛パレードがあった。孫娘が参加することあつて見学に行った。色々な学校の行列にジュニアカップに参加している子供たちの姿を見つけた。学校のプラカードを持つ者、指揮をする者、楽器を演奏する者とポジションは色々だったが、バスケットコートの中と同様皆輝いていた。

バスケットを頑張るだけでなく学校行事、地域行事の中でも頑張っている姿を見てうれしくなった。色々なところでがんばれる、その人間的な成長がやがてバスケットボールの向上にも必ず影響していくことになると思う。

帰宅して孫の試合の様子から石川啄木を思い出す。「練習すれど 練習すれど 試合で発揮できず じっと孫を眺める」。小さな秋より小さな進歩を、天災と孫の成長はある日突然。